



VI

注意すべき生物

6.1 注意すべき生物とは

注意すべき生物は、アレチウリやオオキンケイギク等の「国外から移入して日本国内で分布を広げ、在来生物に影響を与えている生物」や、ニホンジカのように「在来生物であるが、個体数や分布域が拡大し生態系に悪影響を及ぼしている生物」等、安曇野市の自然環境に悪影響を及ぼす可能性がある生物を下記に示す基準に従って選定しました。

【注意すべき生物の選定基準】

安曇野市の自然環境への悪影響

- 在来生物の捕食・競合・駆逐
- 交雑による遺伝的かく乱
- 在来生物への病原菌、寄生虫等の媒介
- 生態系基盤（生物の生息・生育環境）の改変

※外来生物（国外からの移入した生物）、在来生物（日本に元々生息・生育する生物）の区別はしませんでした。

※安曇野市ではまだ記録がないが、今後侵入、定着する可能性がある種も対象としました。

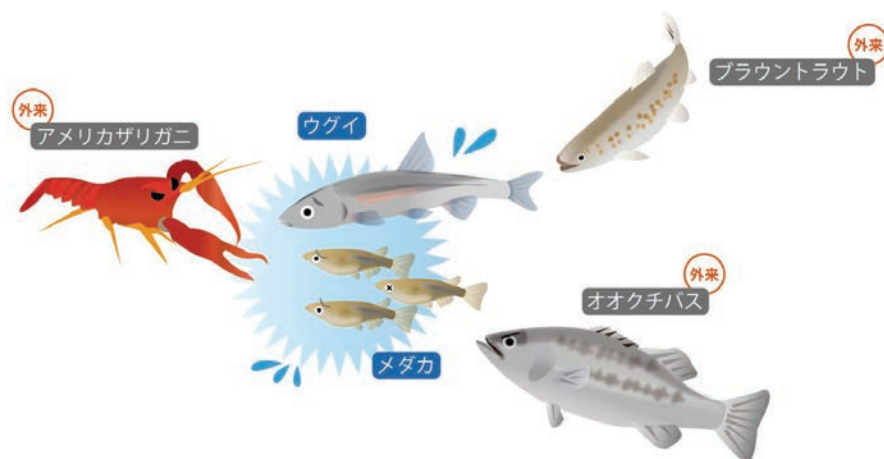


図 6-1 外来生物による在来生物への影響（捕食例）

6.2 選定した注意すべき生物

安曇野市に生息・生育している野生生物のうち、安曇野市の自然環境に影響を与える可能性がある生物（注意すべき生物）として、植物 15 種、動物 26 種を選定しました。

表 6-1 注意すべき生物の選定状況

分類群	在来生物	外来生物			合計
		特定外来生物 ¹⁾	要注意外来生物 ²⁾	その他	
植物	0	3	7	5	15
動物	7	8	7	4	26
哺乳類	2	1	0	1	4
鳥類	0	2	1	0	3
爬虫類	0	0	0	0	0
両生類	0	1	0	0	1
魚類	0	3	3	0	6
昆虫類	5	0	2	1	8
その他無脊椎動物	0	1	1	2	4
合計	7	11	14	9	41

1) 外来生物法において、特定外来生物に指定されている生物。

2) 外来生物法において、要注意外来生物に挙げられている生物。

■注意すべき生物（植物）

科名	種名	特定外来生物	要注意外来生物	掲載ページ
タデ	アレチギシギシ			359
	エゾノギシギシ		○	359
ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ			359
ヒユ	ホソアオゲイトウ			360
マメ	ハリエンジュ		○	360
ニガキ	シンジュ			360
ウリ	アレチウリ	○		361
ゴマノハグサ	ビロードモウズイカ			361
	オオカワヂシャ	○		361
キク	ブタクサ		○	362
	オオブタクサ		○	362
	オオキンケイギク	○		362
	セイタカアワダチソウ		○	363
	セイヨウタンポポ		○	363
イネ	カモガヤ		○	363

■注意すべき生物（動物）

分類群	科名	種名	特定外来生物	要注意外来生物	掲載ページ
哺乳類	アライグマ	アライグマ	○		366
	ジャコウネコ	ハクビシン			366
	イノシシ	イノシシ			366
	シカ	ニホンジカ			367
鳥類	ナンバイウズラ	コリンウズラ		○	367
	チメドリ	ガビチョウ	○		367
		ソウシチョウ	○		368
両生類	アカガエル	ウシガエル	○		368
魚類	サケ	ブラウントラウト		○	368
		カワマス		○	369
		ニジマス		○	369
	サンフィッシュ	ブルーギル	○		369
		オオクチバス	○		370
		コクチバス	○		370

■注意すべき生物（動物）

分類群	科名	種名	特定外来生物	要注意外来生物	掲載ページ	
昆虫類	サシガメ	ヨコヅナサシガメ			370	
	クワガタムシ	ヒラタクワガタ(本土亜種を除く国内の別地域と国外産)		○	371	
		オオクワガタ(本土亜種を除く国外産)		○	371	
	タマムシ	ヤノナミガタチビタマムシ			371	
	カミキリムシ	ビャクシンカミキリ				372
		スギカミキリ				372
		マツノマダラカミキリ				372
ナガキクイムシ	カシノナガキクイムシ			373		
その他の無脊椎動物	ミズツボ	コモチカワツボ			373	
	マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ			373	
	ザリガニ	ウチダザリガニ	○		374	
	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ		○	374	

□■ 特定外来生物と要注意外来生物 ■□

特定外来生物と要注意外来生物は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で指定されている外来生物です。

特定外来生物は、生態系、人の生命や身体、農林水産業へ被害を及ぼす、あるいは及ぼすおそれのある種が指定されています。特定外来生物は、飼育、栽培、保管、運搬、輸入、野外へ放つこと等が原則として禁止されています。また、駆除の対象となっています。現在、要注意外来生物は、生態系に悪影響を及ぼす可能性があることから、その種を利用する場合、適切な取り扱いに理解と協力が求められている種です。

これらの種の多くは、本来は飼育や商用を目的として国内に持ち込まれたものですが、意図的あるいは偶発的に野外に放たれることにより、日本の生態系の脅威となっています。

注意すべき生物（植物）

(1) 注意すべき生物（植物）の概要

今回、注意すべき生物に選定した植物は15種でした。表6-2に選定種の概要を示します。

表 6-2 注意すべき生物に選定した植物の概要

分類群	種数	選定した種の概要
植物	15	<ul style="list-style-type: none">・選定した種は、すべて国外から持ち込まれた外来生物です。そのうち特定外来生物に指定されているのはアレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの3種、要注意外来生物に指定されているのは7種になります。・選定した種の多くは、山麓部・平野部の農地や住宅地、あるいは河川・水辺等の開けた環境に生育しています。

(2) 危惧される自然環境への影響

注意すべき生物に選定した植物のほとんどは、山麓部・平野部の農地や住宅地、河川・水辺のような開けた環境や人の生活圏と重なる地域に生育する種です。

このような植物が多く生育する環境は、人による土地の改変や河川の出水のような環境のかく乱が大きいことが特徴です。注意すべき生物として選定した植物の多くは、このような環境のかく乱が起きた後にいち早く侵入し、その場所の在来植物を駆逐してしまいます。

このように注意すべき生物（植物）が多く生育することは、本来その地域に生育する植物の種構成が変わることになり、その場所を生息の基盤としている動物の減少を引き起こす等、その地域の生態系に悪影響をもたらします。

北アルプスの高山帯でも、登山道沿いを中心に、本来高山帯に生育していない植物がみられるようになりました。これは、登山者の靴に付着した種子が定着したものと考えられます。最近では登山ブームにより、北アルプスを訪れる登山者は増加傾向にあることから、高山帯のような環境でも今後、山麓部・平野部等と同様な問題が起きる可能性があります。

アレチギシギシ

Rumex conglomeratus

タデ科



●**特徴**：高さ 40～120cm の多年草。葉のふちは波打ってみえます。花はピンク色で、花期は 5～7 月です。本来の分布域はヨーロッパです。

●**生育環境**：農地や道ばたなどに生育します。

●**懸念される影響**：在来種のギシギシやダイオウ・ノダイオウなどとの雑種をつくることが懸念されます。また根が太く、深いので除草が難しい種です。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。畦畔・道路の法面に多くみられます。たくさんの果実をつけるため分布が広がっています。

エゾノギシギシ

Rumex obtusifolius

タデ科

要注意外来生物



●**特徴**：高さ 80～150cm の多年草。葉のふちは波打ってみえます。花は淡い緑色で、花期は 5～7 月です。本来の分布域は、ヨーロッパです。

●**生育環境**：農地や道ばたなどに生育します。

●**懸念される影響**：在来種のギシギシやダイオウ・ノダイオウなどとの雑種をつくることが懸念されます。また根が太く、深いので除草が難しい種です。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。畦畔・道路の法面に多くみられます。たくさんの果実をつけるため分布が広がっています。

ヨウシュヤマゴボウ

Phytolacca americana

ヤマゴボウ科



●**特徴**：高さ 70～250cm の多年草。花は白色か薄紅色で、花期は 6～10 月です。黒く扁平した果実をつけ、つぶすと赤紫色の汁がでます。本来の分布域は、アメリカです。

●**生育環境**：道ばたや荒地などに生育します。

●**懸念される影響**：同じような環境を好む在来種のヤマゴボウと生育地をめぐって競合します。根が太く、深いので除草が難しい種です。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。山地帯の裸地や河川敷に多くみられます。鳥が液果を食べ、移動先で糞をすることで分布を広げています。

ホソアオゲイトウ

Amaranthus patulus

ヒユ科



●**特徴**：高さ 1～2m の一年草。茎は帯紅色のものが多く、分枝し、上部に軟毛があります。花期は 7～10 月です。本来の分布域は、熱帯及び亜熱帯アメリカです。

●**生育環境**：農地や道ばたなどに生育します。

●**懸念される影響**：生育地をめぐって、在来植物と競合しています。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。大豆畑や休耕田に多くみられます。たくさんの種子をつくり、生育もよく繁茂します。

ハリエンジュ

Robinia pseudoacacia

マメ科

要注意外来生物



●**特徴**：最大で高さ 25m に達する落葉広葉樹。ニセアカシアという別名があり、枝にとげがあります。花は白色で、花期は 4～6 月です。国内には砂防用などとして移入されました。本来の分布域は、北アメリカです。

●**生育環境**：平野部から山地帯にかけて生育します。河川敷などの荒地に多くみられます。ケヤキやヤナギ類の分布域に生育します。

●**懸念される影響**：土壌を富栄養化させる根粒バクテリアとの共生によって、ケヤキやヤナギ類よりも早く成長します。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。河川敷や山麓部・平野部に多くみられます。

シンジュ

Ailanthus altissima

ニガキ科



●**特徴**：最大で高さ 10m に達する落葉広葉樹。ニワウルシという別名があります。花は黄緑色で、花期は 5～6 月です。国内には庭木として移入されました。本来の分布域は、中国です。

●**生育環境**：河川敷などに生育します。

●**懸念される影響**：河川敷や山麓部・平野部の裸地に先駆的に侵入します。多くの種子をつけ競合するハリエンジュと置き換わりつつあります。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。河川敷や山麓部・平野部に分布を広げています。

アレチウリ

Sicyos angulatus

ウリ科

特定外来生物



●**特徴**：つる生の一年草。茎には毛が密生し他の植物に巻きつきます。花は白色か淡い緑色で、花期は8～9月です。輸入大豆に混入した種子によって移入しました。本来の分布域は、北アメリカです。

●**生育環境**：農地や河川敷などに生育します。

●**懸念される影響**：植物にからみつき、覆ってしまいます。覆われた植物は、日光をさえぎられて、枯れてしまいます。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。特に河川敷や沢筋のやや湿り気の多い所に多くみられます。果実がたくさん実るため、急速に分布を広げています。

ビロードモウズイカ

Great mullin

ゴマノハグサ科



●**特徴**：高さ 1～2m の二年草。全体が白い毛に覆われています。上の方に黄色の小さな花が密生して咲きます。花期は6～8月です。本来の分布域は、ヨーロッパです。

●**生育環境**：道ばたや河川敷などの荒地に生育します。

●**懸念される影響**：生育環境をめぐる在来植物と競合します。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。特に河川敷や道路法面、山地帯の裸地に多くみられます。

オオカワヂシャ

Veronica anagallis-aquatica

ゴマノハグサ科

特定外来生物



●**特徴**：高さ 30～100cm の多年草。葉は細く先はとがっています。花は淡い紫色で、花期は4～9月です。本来の分布域は、ヨーロッパからアジア北部です。

●**生育環境**：河川、湧水地、水路などに生育します。

●**懸念される影響**：在来植物のカワヂシャと競合して、カワヂシャを激減させています。また、カワヂシャとの間に雑種をつくります。

●**市内の生育状況**：市内の湧水地の小川や、放棄ワサビ田などに生育しています。豊科では、カワヂシャとオオカワヂシャの雑種である、ホナガカワヂシャが記録されています。

ブタクサ

Ambrosia artemisiifolia

キク科

要注意外来生物



●**特徴**：高さ 30～120cm の一年草。黄色の小さな花が稲穂のように咲きます。花期は 7～10 月です。本来の分布域は、北アメリカです。

●**生育環境**：河川敷などの荒地に生育します。

●**懸念される影響**：大群落をつくることから、在来植物の生育環境を奪っています。また、花粉症の原因となっています。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。特に河川敷や道路の法面に多くみられます。

オオブタクサ

Ambrosia trifida

キク科

要注意外来生物



●**特徴**：高さ 1～3m の一年草。茎は太く直立していて、毛があります。花は黄緑色で、花期は 7～9 月です。輸入大豆に混入した種子によって移入しました。本来の分布域は、北アメリカです。

●**生育環境**：河川敷などの荒地に生育します。やや湿り気のある場所を好みます。

●**懸念される影響**：草丈が高いことから日光をさえぎり、在来植物を減少させています。また、花粉症の原因となっています。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。特に河川敷、道路の法面などに多くみられます。

オオキンケイギク

Coreopsis lanceolata

キク科

特定外来生物



●**特徴**：高さ 30～70cm の多年草。花は黄色で、花期は 5～7 月です。国内には観賞用として移入されました。本来の分布域は、アメリカ合衆国です。

●**生育環境**：道ばた、線路脇、河川敷などに生育します。

●**懸念される影響**：種子が多く、生育も早いので大群落を形成し、在来植物の生育環境を奪ってしまいます。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。河川敷や道路沿いに大群落がみられます。鮮やかな花のため、畦畔に生育している場所では、刈り残していることがあります。

セイトカアワダチソウ

Solidago altissima

キク科

要注意外来生物



●**特徴**：高さ 50～250cm の多年草。黄色の小さな花が泡のように密生します。花期は 10～11 月です。国内には観賞用として移入されました。本体の分布域は、アメリカ東部です。

●**生育環境**：道ばたや河川敷などに生育します。

●**懸念される影響**：根から周囲の植物の成長をおさえる化学物質（アレロパシー）を出し、在来植物を減少させています。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。河川敷や道路沿いに大群落がみられます。鮮やかな花のため、畦畔に生育している場所では、刈り残していることがあります。

セイヨウタンポポ

Taraxacum officinale

キク科

要注意外来生物



●**特徴**：高さ 10～45cm の多年草。葉はぎざぎざです。花は黄色で横からみると脇がそりかえっています。花期は 3～5 月です。国内には北海道の札幌市に移入されたのが最初です。本来の分布域は、ヨーロッパです。

●**生育環境**：道ばたや農地、河川敷などに生育します。標高の高い場所にある駐車場の脇にも生育します。

●**懸念される影響**：同じ環境に生育する在来植物であるシナノタンポポと雑種をつくり、シナノタンポポの生育環境を奪っています。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。燕岳周辺の登山道などの高山帯にもみられます。

カモガヤ

Dactylis glomerata

イネ科

要注意外来生物



●**特徴**：高さ 40～120cm の多年草。葉の先は細くとがっています。花は淡い緑色です。花期は 5～7 月です。国内には、牧草として移入されました。本来の分布域は、ヨーロッパと西アジアです。

●**生育環境**：道ばたや農地などに生育します。

●**懸念される影響**：大きく株立ちするため、在来植物の生育環境を奪ってしまいます。花粉症の原因にもなっています。

●**市内の生育状況**：市内各地に生育しています。特に畦畔、道路の法面などに多くみられます。株立ちするので、年々大きくなっていきます。

注意すべき生物（動物）

(1) 注意すべき生物（動物）の概要

今回、注意すべき生物に選定した動物は26種でした。表6-3に分類群ごとの選定種の概要を示します。

表6-3 注意すべき生物に選定した動物の概要

分類群	種数	選定した種の概要
哺乳類	4	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した種は、在来生物のイノシシ、ニホンジカ、外来生物のアライグマ、ハクビシンです。アライグマは特定外来生物に指定されています。 ・選定した種は、山麓部・平野部から山地帯にかけて生息しています。
鳥類	3	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した種は、特定外来生物のガビチョウ、ソウシチョウ、要注意外来生物のコリンウズラです。 ・コリンウズラは山麓部・平野部の河川・水辺に生息し、ガビチョウ、ソウシチョウは山地帯に生息します。
爬虫類	0	<ul style="list-style-type: none"> ・注意すべき生物に該当する種は選定されませんでした。
両生類	1	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した種は、河川・水辺に生息する特定外来生物のウシガエルです。
魚類	6	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した種は、すべて外来生物です。そのうちブルーギル、オオクチバス、コクチバスは特定外来生物に、ブラウントラウト、カワマス、ニジマスは要注意外来生物に指定されています。
昆虫類	8	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した種は、在来生物が5種、外来生物が3種です。そのうち国外産（非日本亜種）のヒラタクワガタとオオクワガタは要注意外来生物に指定されています。
その他無脊椎動物	4	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した種は、すべて河川・水辺に生息する外来生物です。そのうちウチダザリガニは特定外来生物に、アメリカザリガニは要注意外来生物に指定されています。
合計	26	-

(2) 危惧される自然環境への影響

注意すべき生物に選定した動物による自然環境への影響は、捕食による影響、生息場所をめぐる競争による影響、近縁な在来生物と外来生物との交雑による影響等が挙げられます。

特にニホンジカの個体数の増加は、全国各地で自然植生を破壊する問題を引き起こしています。南アルプスではニホンジカが高山帯まで進出した結果、高山帯の植物を食害し、高山帯の生態系に大きな影響を与えています。最近、北アルプスでもニホンジカが目撃例が増えており、南アルプスと同様な影響が懸念されています。

また、最近では海外産の昆虫を飼育することがブームとなっています。特にカブトムシやクワガタムシの仲間は、形態的な特徴から人気が高く、多くの個体が輸入されています。これらの中には在来のクワガタムシの仲間と近縁な種が含まれており、野外へ逃げ出したり、放逐された外来生物と在来生物との交雑が起きることが懸念されます。



ニホンジカによる樹皮はぎ（八ヶ岳）



ニホンジカの食害を受けた植生（南アルプス）



在来と外来のヒラタクワガタ雄の違い
（左：本土亜種、右：八重山亜種）

アライグマ

Procyon lotor

ネコ目 アライグマ科

特定外来生物



●**特徴**：全長 60～100cm。目の周囲には黒いマスクのような模様があります。尾にはリング状の模様があります。動物も植物も食べます。本来の分布域は北アメリカで、国内にはペットとして移入されました。

●**生息環境**：森林、湿地、市街地など幅広い環境に生息し、水辺を好みます。

●**懸念される影響**：農作物の食害や、神社・民家などに住みつくことによる糞尿被害（建物の汚染や破損など）が懸念されます。

●**市内の生息状況**：現時点では確認記録はありません。県内では東信と南信を中心に分布域が拡大しており、今後、市内にも生息する可能性があります。

ハクビシン

Paguma larvata

ネコ目 ジャコウネコ科



●**特徴**：全長 100cm。額から鼻にかけて白線があり、尾は長いです。動物も植物も食べます。本来の分布域は東南アジア周辺で、江戸時代に移入されたと考えられています。

●**生息環境**：山麓部・平野部に生息します。

●**懸念される影響**：農作物の食害や、神社・民家などに住みつくことによる糞尿被害（建物の汚染や破損など）が懸念されます。

●**市内の生息状況**：山麓部を中心に生息していますが、最近では平野部の市街地でも確認されるようになってきました。

イノシシ

Sus leucomystax

ウシ目 イノシシ科



●**特徴**：全長 110～160cm。全身は褐色で、口には大きなキバがあります。動物も植物も食べます。本州、四国、九州に分布します。

●**生息環境**：山麓部・平野部から山地帯にかけての森林に生息します。森林に隣接する農地に出てくることもあります。

●**懸念される影響**：農作物の食害や植生への影響などが懸念されます。また、市街地に出てきた個体が人に怪我をさせることも心配されます。

●**市内の生息状況**：山麓部から山地帯の森林に生息しています。

ニホンジカ

Cervus nippon

ウシ目 シカ科



●**特徴**：全長 60～130cm。夏は茶褐色、冬は褐色であり、雄には角があります。植物を食べます。北海道から九州にかけてと離島に分布しますが、地域により亜種にわかれています。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の森林に生息します。

●**懸念される影響**：農作物への食害や、様々な種類の植物を食べることによる森林破壊や生態系への影響が懸念されます。

●**市内の生息状況**：山麓部から山地帯の森林に生息します。主に豊科・明科に多く生息していますが、最近は穂高・三郷・堀金の山麓部でも目撃されるようになってきました。

コリンウズラ

Colinus virginianus

キジ目 ナンベイウズラ科

要注意外来生物



●**特徴**：全長 20～25cm。体は茶褐色で、顔には白い眉（まゆ）のような模様があります。植物を食べます。本来の分布域はアメリカやメキシコです。

●**生息環境**：農地や河川敷に生息します。

●**懸念される影響**：個体数が増加した場合、農作物への食害が懸念されます。

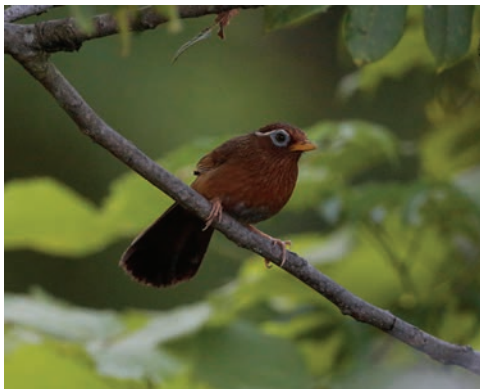
●**市内の生息状況**：穂高の農地や明科の犀川河川敷で目撃例があります。

ガビチョウ

Garrulax canorus

スズメ目 チメドリ科

特定外来生物



●**特徴**：全長 21～24cm。体は茶色で目のまわりの白い模様が目立ちます。昆虫や植物の種子を食べます。国内にはペットとして移入されました。本来の分布域は中国や東南アジアです。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の森林に生息します。林床にやぶが多い場所を好みます。

●**懸念される影響**：個体数が増加すると、同じ環境に生息する在来の鳥類と生息場所を争うことになり、これらの種を減少させてしまう可能性が懸念されます。

●**市内の生息状況**：現時点では確認記録はありません。県内では分布域が拡大しており、今後、市内にも生息する可能性があります。

ソウシチョウ

Leiothrix lutea

スズメ目 チメドリ科

特定外来生物



●**特徴**：全長約 12cm。体は暗い緑色で、翼には黄色と赤色の斑があります。くちばしは赤色です。昆虫や植物の種子を食べます。国内にはペットとして移入されました。本来の分布域は、中国南部からインドにかけてです。

●**生息環境**：標高約 1,000m 以上の山地帯から亜高山帯の森林に生息します。林床にササ類が密生した場所を好みます。

●**懸念される影響**：個体数が増加すると、同じ環境に生息する在来の鳥類と生息場所を争うことになり、これらの種を減少させてしまう可能性が懸念されます。

●**市内の生息状況**：現時点では確認記録はありません。県内では東信と南信を中心に分布域が拡大しており、今後、市内にも生息する可能性があります。

ウシガエル

Rana catesbeiana

カエル目 アカガエル科

特定外来生物



●**特徴**：全長 15～20cm。雄は緑色、雌は褐色です。ブォー、ブォーと低くうなるような声で鳴きます。エビ類などを食べます。国内には食用として移入されました。本来の分布域はアメリカ、カナダ、メキシコです。

●**生息環境**：湖、池沼、溜池、河川、水路などに生息します。流れがゆるやかで水草が繁茂する場所を好みます。

●**懸念される影響**：在来の両生類などを食べることから、これらの種を減少させることが懸念されます。沖縄県では他のカエル類が激減した島もあります。

●**市内の生息状況**：明科の犀川で生息が確認されています。

ブラウトラウト

Salmo trutta

サケ目 サケ科

要注意外来生物



●**特徴**：最大で全長約 110cm。体は茶褐色で、黒色や朱色の斑点があります。魚や昆虫類を食べます。国内には釣りの対象とするために移入されました。本来の分布域はヨーロッパや西アジアです。

●**生息環境**：河川や湖、池沼に生息します。水の冷たい場所を好みます。

●**懸念される影響**：在来の魚類を食べることにより、これらの種を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：犀川の本支流に生息しており、近年分布域が拡大しています。

カワマス

Salvelinus fontinalis

サケ目 サケ科

要注意外来生物



●**特徴**：最大で全長約 50cm。イワナに似ていますが、背中にある暗い斑点が特徴です。魚類や昆虫類を食べます。国内には釣りの対象として移入されました。本来の分布域は、北アメリカ東部です。

●**生息環境**：河川や湖、池沼に生息します。水の冷たい場所を好みます。ブラウントラウトやニジマスよりも水温が高い場所に弱い傾向があります。

●**懸念される影響**：在来のイワナと交雑することにより、在来のイワナへの影響が懸念されます。

●**市内の生息**：犀川で生息が確認されています。上流の上高地ではカワマスとイワナとの雑種が多くなっています。

ニジマス

Oncorhynchus mykiss

サケ目 サケ科

要注意外来生物



●**特徴**：最大で全長約 100cm。繁殖期の雄には虹色の光沢があります。昆虫類やエビ・カニ類を食べます。国内には釣りの対象や食用として移入されました。本来の分布域は、北アメリカ太平洋側からカムチャッカ半島です。

●**生息環境**：河川や湖、池沼に生息します。水の冷たい場所を好みます。

●**懸念される影響**：放流個体が在来の魚類を追い払い、生息場所を奪うことが懸念されます。

●**市内の生息状況**：犀川を中心に放流された個体が生息しています。

ブルーギル

Lepomis macrochirus

スズキ目 サンフィッシュ科

特定外来生物



●**特徴**：最大で全長約 30cm。体には 7~10 本の横おびがあります。魚の卵や昆虫類、植物を食べます。国内には、食用やペットとして移入されました。本来の分布域は、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコです。

●**生息環境**：河川、湖、池沼、溜池などに生息します。水草が繁茂する場所を好みます。

●**懸念される影響**：様々な動物を食べるため、多くの在来の水生生物を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：明科の犀川や高瀬川で生息が確認されています。

オオクチバス

Micropterus salmoides

スズキ目 サンフィッシュ科

特定外来生物



●**特徴**：最大で全長約 50cm。体には黒色の太い縦線が 1 本あります。魚類、エビ・カニ類を食べます。国内には食用や釣りの対象として移入されました。本来の分布域は、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコです。

●**生息環境**：河川、湖、池沼、ダム湖、溜池などに生息します。

●**懸念される影響**：他の在来の魚を食べることにより、これらの種を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：明科の犀川、高瀬川などで生息が確認されています。

コクチバス

Micropterus dolomieu

スズキ目 サンフィッシュ科

特定外来生物



●**特徴**：最大で全長約 70cm。体には 8~10 本の暗色の横おびがあります。主に魚類、エビ・カニ類を食べます。国内には食用や釣りの対象として移入されました。本来の分布域は、カナダ、アメリカ合衆国です。

●**生息環境**：河川、湖、池沼、ダム湖、溜池などに生息します。オオクチバスに比べて水の冷たい場所や流れの速い場所にも生息します。

●**懸念される影響**：他の在来の魚を食べることにより、これらの種を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：明科の犀川、高瀬川などで生息が確認されています。オオクチバスより水が冷たい場所や流れの速い場所に生息することから、市内での分布域が拡大する可能性があります。

ヨコヅナサシガメ

Agriosphodrus dohrni

カメムシ目 サシガメ科



●**特徴**：体長 16~24mm。体は黒色で光沢が強く、長毛に覆われています。各脚の基節と腹端 2 節は鮮紅色です。昆虫類やクモ類を捕食します。本来の分布域は、中国、インドシナ半島、インドです。

●**生息環境**：平野部から山麓部に生息していると考えられます。

●**懸念される影響**：他の昆虫類やクモ類などを食べることにより、これらの種を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：平野部から山麓部にかけて生息していると考えられますが、詳しいことはわかっていません。

ヒラタクワガタ (本土亜種を除く国内の別地域と国外産) *Dorcus titanus* (except for ssp. *pilifer*)

コウチュウ目 クワガタムシ科

要注意外来生物



●**特徴**：体長 18～81mm。体は黒色で光沢がありますが、大型の雄ほど鈍くなります。成虫はクヌギやヤナギなどの樹液に集まります。本種は 25 亜種に分類され、日本には 12 亜種が知られています(左図は石垣島産)。

●**生息環境**：山麓部・平野部の二次林や、河川敷のヤナギ林などに生息しますが、太い朽木が十分に供給される環境が必要です。

●**懸念される影響**：市内に生息する在来のヒラタクワガタとの交雑が懸念されます。

●**市内の生息状況**：市内の生息状況は、よくわかっていません。

オオクワガタ (本土亜種を除く国外産) *Dorcus hopei* (except for ssp. *binodulosus*)

コウチュウ目 クワガタムシ科

要注意外来生物



●**特徴**：体長 21～76mm。体は黒色で光沢がありますが、大型の雄ほど鈍くなります。小型の雄と雌の上翅には 12 条の点刻列があります。成虫は樹洞のあるクヌギの太木などに生息し、夜間に活動します(左図は、タイ産)。

●**生息環境**：山麓部・平野部の二次林に生息しますが、太い朽木が十分に供給される環境が必要です。

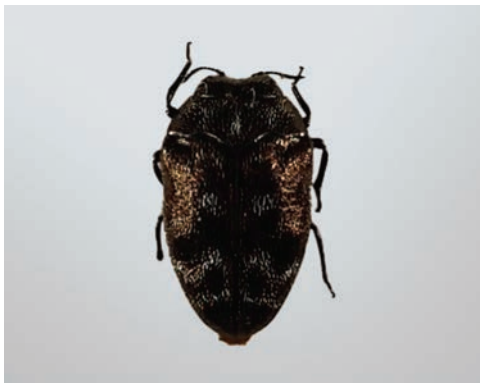
●**懸念される影響**：市内に生息する在来のオオクワガタとの交雑が懸念されます。

●**市内の生息状況**：市内の生息状況は、よくわかっていません。

ヤノナミガタチビタムシ *Trachys yanoi*

コウチュウ目 タムシ科

Trachys yanoi



●**特徴**：体長 3～4mm。体色は唐金色が強く、毛は明るい褐色です。上翅は銀白色毛の波状帯斑があります。成虫、幼虫ともにケヤキの葉を食べます。国内では本州から九州、佐渡ヶ島に分布します。

●**生息環境**：平野部から山麓部のケヤキ林に生息していると考えられます。

●**懸念される影響**：ケヤキの葉を食べることから、社寺林や屋敷林のケヤキを枯らしてしまうことが懸念されます。

●**市内の生息状況**：平野部から山麓にかけて生息していると考えられますが、詳しいことはわかっていません。

ビヤクシンカミキリ

Semanotus bifasciatus

コウチュウ目 カミキリムシ科



●**特徴**：体長 8～20mm。上翅は基部が茶褐色で、黄褐色の横帯がありますが、個体による変異が大きいです。成虫は 3～5 月に出現します。主に夜間に活動します。幼虫はスギ、ヒノキなどの辺材部を食べます。

●**生息環境**：スギ、ヒノキなどの植林地や社寺林などに生息します。

●**懸念される影響**：幼虫は、スギやヒノキなどを食害することから、植林地や社寺林などの植栽木を弱らせることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：スギやヒノキの植林地や社寺林などに生息していると考えられます。

スギカミキリ

Semanotus japonicus

コウチュウ目 カミキリムシ科



●**特徴**：体長 12～27mm。体は黒色で、上翅に 2 対の黄褐色の紋がありますが、小型の個体は紋が小さくなります。成虫は 4～5 月に出現し、主に夜間に行動します。幼虫はスギ、ヒノキの辺材部を食べます。

●**生息環境**：スギ、ヒノキの植林地や、社寺林などに生息します。

●**懸念される影響**：幼虫は、スギやヒノキを食害することから、植林地や社寺林などの植栽木を弱らせることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：スギやヒノキの植林地や社寺林などに生息していると考えられます。

マツノマダラカミキリ

Monochamus alternatus

コウチュウ目 カミキリムシ科



●**特徴**：体長 18～29mm。上翅は赤褐色の縦条が 10 本あり、その間は黒色、濃褐色、灰色のまだら模様となります。成虫は 5～8 月に出現します。夜間にマツ類の新しい枝の樹皮を食べます。幼虫は樹皮下の辺材部を食べます。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の広い範囲のアカマツ林に生息していると考えられます。

●**懸念される影響**：マツ枯れを引き起こすマツノサイセンチュウを媒介することから、アカマツ林の減少やそれに伴う土砂崩壊が懸念されます。

●**市内の生息状況**：市内各地でマツ枯れが進行していることから、市内のアカマツ林に生息していると考えられます。

カシノナガクイムシ

Platypus quercivorus

コウチュウ目 ナガクイムシ科



●**特徴**：体長 4～5mm。体は円筒状で、体色は茶色から暗褐色です。幹に掘った孔道の内壁に繁殖する菌類を食べて生活します。雌には菌類を貯蔵する器官があり、枯れた木から生きている木へと菌類を運びます。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の自然林や二次林に生息します。

●**懸念される影響**：ナラ枯れを引き起こすことから、コナラやミズナラ林の減少による森林性の動植物への影響が懸念されます。

●**市内の生息状況**：市内では確実な記録はありませんが、長野県内でのナラ枯れは拡大傾向にあることから、今後、生息が確認される可能性があります。

コモチカワツボ

Potamopyrgus antipodarum

盤足目 ミズツボ科



●**特徴**：殻高 4～5mm。カワニナの幼貝によく似ていますが、カワニナの殻口がひし形なのに対して、コモチカワツボは長円形をしています。本来の分布域は、ニュージーランドです。

●**生息環境**：河川や湧水地、用水路などに生息します。

●**懸念される影響**：同じ環境に生息するカワニナを減少させることや、幼虫期にカワニナを餌とするゲンジボタルへの影響が懸念されます。

●**市内の生息状況**：犀川をはじめとした河川や、拾ヶ堰などの用水路で生息が確認されています。

フロリダマミズヨコエビ

Crangonyx floridanus

ヨコエビ目 マミズヨコエビ科



●**特徴**：体長 4～8mm。水底で腹面を下にして這い、水中では腹面を横にして泳ぎます。本来の分布域は、アメリカです。

●**生息環境**：河川に生息します。水質が汚濁した場所や水温が高い場所にも生息することができます。

●**懸念される影響**：同じ環境に生息する他のヨコエビ類を減少させることや、ワサビへの食害が懸念されます。

●**市内の生息状況**：犀川、万水川、蓼川（たでかわ）で生息が確認されています。

ウチダザリガニ

Pacifastacus trowbridgii

エビ目 ザリガニ科

特定外来生物



●**特徴**：体長約 15cm。体はがっしりしており、体色は緑褐色または茶褐色、青褐色などです。水草、水生昆虫、魚類、動物の死骸などを食べます。本来の分布域は、北アメリカ北西部です。

●**生息環境**：河川や湖、池沼、用水路などに生息します。低水温や汽水環境にも耐性があります。

●**懸念される影響**：水生の動物や植物を食べることから、これらの種を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：明科の犀川で生息が確認されています。

アメリカザリガニ

Procambarus clarkii

エビ目 アメリカザリガニ科

要注意外来生物



●**特徴**：体長約 15cm。成体の体色は暗赤色ですが、様々な色彩変異があります。水草、水生昆虫、魚類などを食べます。本来の分布域は、アメリカ合衆国、メキシコで、国内には養殖のウシガエルの餌として移入されました。

●**生息環境**：河川や湖、池沼、ため池、水田、用水路などに生息します。高水温や水質汚濁への耐性があります。冬季は巣穴で冬眠します。

●**懸念される影響**：水生の動物や植物を食べることから、これらの種を減少させることが懸念されます。

●**市内の生息状況**：用水路などに生息していますが、最近はコンクリート化されたことにより、減少傾向にあります。